

『太平經鈔』 戊部 四葉裏三行目〜六葉一行目

二〇二二年七月二三日 担当 亀田勝見

(一) 原文

天師爲太平之氣出受道德、以興上皇、好有道之君、乃下及愚小民、其爲思乃洞於六合、合於八極、無不包裹。

道有九度分別。一名爲元氣無爲、二爲凝靖虛無、三爲度數分別可見、四爲神遊去而還反、五爲大道神與四時五行相類、六爲刺喜、七爲社謀、八爲洋神、九爲家先。一分爲九、九九八十一〔首〕(道)、殊端異文、密用之、則共爲一大根、以神爲使、以人爲門戶。

対校：『太平經』71真道九首得失文訣107（以下「經」）

- ・天師爲太平之氣出受道德… 經「今、天師爲太平之氣出授道德」
- ・以興上皇… 經「以興無上之皇」
- \* 好有道之君… 經「上有好道德之君」、從之。
- ・其爲思乃洞於六合… 經「其爲恩、迺洞於六合」
- \* 合於八極… 經「洽於八極」、從之
- ・道有九度分別… 經「道有九度分別異字也」
- ・一名爲元氣無爲… 經「一事名爲元氣無爲」
- ・三爲度數分別可見… 經「三爲度數分別可見」
- ・四爲神遊去而還反… 經「四爲神游、出去而還反」
- ・一分爲九… 經「二事者、各分爲九」
- \* 九九八十一道殊端異文密用之… 經「九九八十一首、殊端異文密用之」、從之
- ・以人爲門戶… 經「以人爲戶門」

書き下し

天師 太平の氣出でしがために道德を受け、以て上皇を興す。(上に) 有道を好むの君あらば、乃ち下 愚小の民に及ぶ。其の思ひは乃ち六合に洞し、八極に合あまねくして、包裹せざるは無し。

道に九度の分別有り。一の名は元氣無爲たり。二は凝靖虚無たり。三は度數の分別見るべきことなり。四は神遊去して還反することたり。五は大道神、四時五行と相類することたり。六は刺喜たり。七は社謀たり。八は洋神たり。九は家先たり。一分かれて九となり、九九八十一首(道) 殊端異文、密かに之を用ふれば、則ち共に一大根となり、神を以て使と爲し、人を以て門戸と爲す。

日本語訳

天師は太平の気が出現したことをうけて道德の教えを世に授け、上皇の道をさかんにする。道を好む君主が（上に）いれば、下は愚小の民にまでその作用が及ぶ。その思い（恩沢？）は天地四方のあらゆるところまで伝わり、八極のかなたまでひろく行き渡り、すべてを包み覆う。

道法には九つの区別された段階がある。一は「元氣無為」、二は「凝靖虚無」、三は「度数の明瞭な区別」。四は「神が外へ遊び出でてまた戻る」。五は「大道神が四時五行と類する」。六は「刺喜」。七は「社謀」。八は「洋神」。九は「家先」。一つの教えは九つに分かれ、全部で九九八十一首ある。端緒も違えば文字も異なるが、秘術としてこれらを用いれば、いずれも一つの大きいなる根本であり、諸神はそのために役使され、人はその門戸となる。

注

太平之氣出

『經』91 拘校三古文法132 「然後太平、上皇之氣立出、延年立來。」(鈔口部15a1)

上皇(經作「無上之皇」)

『經』35 分別貧富法41 「富之爲言者、迺畢備足也。天以凡物悉生出爲富足、故上皇氣出、萬二千物具生出、名爲富足。」(鈔丙部1a7)

同「今天師既加恩愛、乃憐帝王在位、用心愁苦、不得天意、爲其每具開說、可以致上皇太平之路。」

好有道之君

『鈔』丙部「古者有道帝王、深居幽室而思道德、而萬物自足。」(1b5)

×『鈔』丙部「君道衰、臣道強盛。是以古之有道帝王、興陽爲至、降陰爲事。」(21a7)

『經』35 分別貧富法41 「今真人以吾書付有道德之君、力行之令效、立與天相應、而致太平、可名爲富家、不疑也、可無使帝王愁苦、反名爲貧家也。」

愚小民

『經』44 案書明刑德法60 「有過甚大、負於明師神人之言、内慚流汗；但愚小德薄至賤、學日雖多、心頓不能究達明師之言、故敢不反復問之、甚大不謙、久爲師憂不也。」

洞於六合、合於八極

『鈔』乙部「夫壽命、天之重寶也。所以私有德、不可僞致。欲知其寶、乃天地六合八遠萬物、都得無所冤結、悉大喜、乃得增壽也。」(11a3)

『鈔』乙部・守一明法「三光行道不懈、故著於天而照八極、失道光滅矣。」

『淮南子』本經「帝者體太一、王者法陰陽、霸者則四時、君者用六律。秉太一者、牢籠天地、彈壓山川、含吐陰陽、伸曳四時、紀綱八極、經緯六合。」

『三国志』33蜀書後主傳「後主舉家東遷，既至洛陽，策命之曰『：乃者漢氏失統，六合震擾。我太祖承運龍興，弘濟八極，是用應天順民，撫有區夏。』」

無不包裹

『鈔』乙部・守一明法「自然者，乃萬物之自然也。不行道，不能包裹天地，各得其所，能使高者不知危。」(5b10)

凝靖

『高僧傳』3曇摩密多「元嘉十年還都，止鍾山定林下寺。密多天性凝靖，雅愛山水，以為鍾山鎮岳。」(0343a12)

度數

『經』45起土出書訣「父教有度、數、時節，故天因四時而教生養成，終始自有時也。」(『鈔』丙部10b8)

『經』50灸刺訣74「人有小有大，尺寸不同，度數同等，常以竅穴分理乃應也。」

神遊去而還反

『鈔』己部「神人語真人言，古始學道之時，神、遊、守、柔、以、自、全、積、德、不、止、道、致、仙、乘、雲、駕、龍、行、天、門、隨、天、轉、易、若、循、環。」(17b1)

『鈔』癸部「故人生百二十上壽，八十中壽，六十下壽，過此皆夭折。此蓋神、游、於、外、病、攻、其、內、也。」(5b1)

『三洞珠囊』卷一救導品引『太平經』第三十三「夫神精，其性常居空閑之處，不居污濁之處也；欲思還神，皆當齋戒，懸象香室中，百病消亡；不齋不戒，精神不肯還，反人也，皆上天共訴人也，所以人病積多，死者不絕。」

大道神

『鈔』甲部「此時十五年中，遠至三十年內，歲災劇，賢聖隱淪。大道神人更遣真仙上土出經行化，委曲導之。勸上勵下，從者為種民，不從者沈沒，沈沒成混壘。」(4a8)

『太平廣記』325・薄紹之「汝是妖邪，敢於恐人，我不畏汝，汝若不速去，令大道神尋收治汝(出述異記)」

刺喜 ※「刺」<sup>ツツ</sup>、蓋し「刺」<sup>ツツ</sup>ならん

『經』51校文邪正法78「行，吾今欲與子共議一事，今若子可刺、取吾書，寧究治達未哉？」

『鈔』辛部「天道有緩有急，人事亦然，有緩有急。天道急，即風雨雷電不移時而至；人道有急，亦趨走不移時而至。急者即以時應天法則上之，刺、一通付還本事，而有賞罰，緩者須八月為一

日上甲。」(5a1)

『無上秘要』24三寶品「學仙道士常以本命甲子立春之日，青書二十四字於白刺上，記姓名年月於刺下，投靈山之獄，九年仙官到，身得飛仙。(8b7)

家先

『經』114不承天書言病當解謫誠202「令世俗人亦自薄恩，復少義理。當前可意，各不惜其壽。縱橫自在，以為無神。隨疏之者衆多，事事相關。及更明堂，拘校前後，上其姓名，主者任錄。如

過負輒白司官，司官白於太陰。太陰之吏取召家先去人，考掠治之。」

『北齊書』45文苑傳·祖鴻勳「與陽休之書曰：陽生大弟：吾比以家貧親老，時還故郡。在本縣之西界，有雕山焉。其處閑遠，水石清麗，高巖四匝，良田數頃，家先有野舍於斯，而遭亂荒廢，今復經始。」

殊端異文密用之

『經』47上善臣子弟子為君父師得仙方訣63「夫人乃得生於父母，得成道德於師，得榮尊於君，每獨居一處，念君父師將老，無有可以復之者，常思行為師得殊方異文，可以報功者。惟念之正心痛也，不得奇異也。」（鈔丙部1463）

『尹文子』大道上「術者，人君之所密用，群下不可妄窺，勢者，制法之利器，群下不可妄為。」

一大根

『莊子』人間世「南伯子綦游乎商之丘，見大木焉（有異），結駟千乘，隱將芘其所賴。子綦曰：『此何木也哉，此必有異材夫。』仰而視其細枝，則拳曲而不可以為棟梁；俯而視其大根，則軸解而不可以為棺槨；啞其葉，則口爛而為傷；嗅之，則使人狂醒，三日而不可已。子綦曰『此果不材之木也，以至於此其大也。嗟乎神人，以此不材。』」

(二)原文

元氣無為者、念身無一為也、但思其身洞白、若委氣而無形、常以是為法。二為虛無自然者、守形洞虛自然、無有奇也、身中照白、上下若（玉）（王）。三為度數者、積精還自視、數頭髮下至足、五指分別、形容內外、莫不畢數、知其意、常以是念、不失銖分、此為小度之術。四為神遊出去者、思念五臟之神、畫出入、見其行遊、可以語言、知其吉凶、次度數也。五為大道神者、人神出、乃與四時五行相類、青赤黃黑、俱同臟神出入、五行神吏為人使、可降諸邪也。六為刺喜者、以刺擊地、頗使人好巧、不可常使。七為社謀、社謀者、天地四時、社稷山川、祭祀之神、不可妄為。八為洋神者、其神洋洋、其道無可繫屬、天下精氣下、使人妄言、半類真、半類邪。九為家先、先者純見鬼、無有真道也。

对校：『太平經』71真道九首得失文訣107及『太平經聖君秘旨』（抜粹）

- ・元氣無為者、念身無一為也… 經「第一、元氣無為者、念其身也、無一為也」、秘旨「第一、元氣無為者、念身無一也」。「第」字、秘旨以下同、略。
- ・二為虛無自然者… 經「其二為虛無自然者」
- \* 上下若王… 經・秘旨「上下若玉」、從之
- ・三為度數者… 經・秘旨「三為數、度者」
- ・積精還自視… 經「積精還自視也」、秘旨「積精思還自視」
- ・數頭髮下至足… 『秘旨』作「數從頭髮下至足」
- ・形容内外莫不畢數… 經「形容身内外莫不畢數」、『秘旨』作「形容内外莫畢備之」

- ・常以是念… 經「當、常以是爲念」、秘旨「常以此爲思」
- ・此爲小度之術… 經「此亦、小度世之術也」
- ・四爲神遊出去者… 經「四爲神游、出去者」
- ・思念五臟之神… 經「思念五藏之神」
- ・可以語言… 經「可與、語言也」
- ・知其吉凶… 經「此者、知其吉凶」、秘旨「能知吉凶」
- ・次數度也… 經・秘旨「次數、度也」
- ・乃與四時五行相類… 經「迺、與五行、四時、相類」、秘旨「乃與五行四時相類」
- ・青赤黃黑… 經「青赤白、黃黑」、秘旨「青黃、白黑」。從經文。
- ・俱同臟神出入… 經・秘旨「俱同藏神出入往來」
- ・五行神吏爲人使… 經「四時、五行神吏爲人使」、秘旨「五行四時、神吏爲使」
- ・可降諸邪也… 秘旨「可降百邪也」

\* 六爲刺喜者、以刺擊地、頗使人好巧、不可常使。…

經「六爲刺喜者、以刺擊地、道神各、亦自有典、以其家法、祠神來游、半以類真、半似邪、頗使人好巧、不可常使也、久久愁人。」

秘旨「第六爲次喜者、以刺擊地道神、使好巧而入半邪也。」

\* 七爲社謀、社謀者、天地四時、社稷山川、祭祀之神、不可妄爲。…

經「七爲社謀者、天地四時、社稷山川、祭祀神下人也、使人恍惚、欲妄言其神、暴仇狂邪、不可妄爲也。」

秘旨「第七爲社謀者、天地四時、社稷山川、祭祀神、令人通此涉邪妄也、滅而不取。」

・其神洋洋… 經「言其神洋洋」

\* 天下精氣下… 經「天下精氣下人也」

\* 九爲家先、先者純見鬼、無有真道也。…

經「九爲家先、家先者純見鬼、無有真道也、其有召呼者、純死人之鬼來也。此最道之下極也。」  
秘旨「第九家先者、統（純？）陰、非真、所應皆鬼神而已。」

書き下し

「元氣無爲」とは、身を念ずるも一として爲すなきなり。但だ其の身洞白にして委氣の若くして形無きを思ふ。常に是を以て法と爲す。

「二は虚無自然たり」とは、形を守ること洞虚自然にして奇有る無きなり。身中照らすこと白くして上下玉の若し**足の五指に至るまで数え、形容を分別し、内外ことごとく数えざるはなし**。  
「三は度数たり」とは、精を積みて還た自ら視るに、頭髮を數へ下は足に至るまで、五指分別あり、形容内外、畢數せざるはなし。其の意を知り、常に是を以て念じ、銖分も失はず、此れ小度の術たり。

「四は神遊出し去ることたり」とは、五臟の神、晝に出入し、其の行遊するを見、以て

語言すれば其の吉凶を知る可きを思念す。度数に次す。

「五は大道神たり」とは、人神出づるなり。乃ち四時五行と相類す。青赤〔白〕黄黒、俱に臟神と出入し、五行の神吏は人の使と爲り、諸邪を降す可し。

「六は刺喜たり」とは、刺を以て地を撃てば、頗る人をして巧を好む。常に使ふ可からず。

「七は社謀たり」とは、社謀とは天地四時、社稷山川の、祭祀の神なり。妄りに爲す可からず。

「八は洋神たり」とは、其の神洋洋、其の道繫屬す可き無く、天下の精氣下りて人をしめて妄言せしむ。半ば眞に類し半ば邪に類す。

「九は家先たり」とは、〔家〕先とは純もっぱら鬼に見ゆることなり。眞道有る無し。

### 日本語訳

「元氣無爲」とは、おのが身を念じる際、一つもなすことはなく、ただその身が真つ白に光り、委氣にのように形も無いような様を思念する。常にこれにのつとつて過ごす。

「二は虚無自然」とは、肉体を保持して洞虚自然の状態を保ち特別なことがない状態である。身中には白い光が照らし、上下玉のように輝いている。

「三は度数」とは、精神を集中して内視する際、頭髮から下は足の五本指に至るまで数えてゆき、各部位の区別がはっきりして、身体の内外すべてにわたって進めてすべてを数えきるに至り、身に備わる体内神の意を知る。常にこのような形で身を念じ、少しも違わないように努める。これは度世の小術である。

「四は神遊出し去る」とは、五臓の神が日中に身を出入りし、その神が歩き回る姿を見て言葉をかわけば、その吉凶を知ることができる様を思念する。度数に次ぐ道法である。

「五は大道神」とは、人の（五臓神とは別の）体内神が体外へ出る際、四時五行と類似する形で、青赤白黄黒の五色をまとい、いずれも五臓神とともに出入りすることで、五行の神吏は人に使役され、諸々の邪を降すことができる。

「六は刺喜」とは、刺（呪符の類？）で地を撃つ技法のこと。頗る人が巧技を好むようになってしまう（弊害がある）ので。常に使ってよい技法ではない。

「七は社謀」とは、社謀とは天地四時、社稷山川の祭祀の神（が人に降臨する術）である。妄りに行ってはならない。

「八は洋神」とは、感通する神の数が膨大で、その道と繋がることなく、天下の精氣が人に直接降臨するため、その者に妄言を語らせてしまう。その内容は真邪相半ばする。

「九は家先」とあるが、家先とは死した祖先の靈にまみえる術で、眞道が備わらぬ低級な術である。

注

思其身洞白

『鈔』戊部「凡精思之道，成於幽室，不求榮位，志日調密，開蒙洞白，類似晝日。」(11b3)

『經』96守一入室知神戒152「故德君當努力用之，則災害一旦而去，天下自治，無有餘邪文邪辭，洞白悉正，則無餘邪氣。夫邪文邪辭，繫災之根也。」

『山海經』海外西經「白民之國在龍魚北，白身被髮」郭璞注「言其人體洞白」

若委氣而無形

『經』42九天消先王災法56「夫人者，迺理萬物之長也。其無形委氣之神人，職在理元氣；大神人職在理天；真人職在理地；仙人職在理四時；大道人職在理五行；聖人職在理陰陽；賢人職在理文書，皆授語；凡民職在理草木五穀；奴婢職在理財貨。」(鈔丙部6b8)

『鈔』丁部「神而不止，乃復踰天而上，但承委氣，有音聲教化而無形，上屬天上，憂天上事。」(15b6)

同112不忘誠長得福訣190「取信於天，取信於地，取信於中和，取信於四時，取信於五行，是皆天所得報信也。不失銖分，知之不乎？是委氣無形自然之所服化也。」(鈔庚部23b10)

守形洞虛自然

『鈔』乙部「以樂治身守形，順念致思却災。夫樂於道，何爲者也？樂乃可和合陰陽，凡事默作也，使人得道本也。」(3a4)

『經』86八卦還精念文130「道以自然，為洞虛，無一旦自來，其道仁良。」

『真誥』卷六甄命授「若攝氣營神，苦辛注真，將得道。久道成則同與天地共寓在太無中矣。若洞虛體無，則與太無共寄寓在寂寂中矣。」(11a3)

『無上秘要』6劫運品「天尊言：龍漢之後，天地破壞，其中渺渺，億劫无光，上无復色，下无復淵。風澤洞虛，幽幽冥冥，无形无影，无極无窮，混沌无期，號爲延康。」(1a4)

同100昇無形品「道言：真人者，體洞虛无，與道合真，同於自然。无所不能，无所不知，无所不通。右出洞元自然經訣。」(7a2)

無有奇

『經』54使能無爭訟法81「自古者諸侯太平之君，無有奇神道也，皆因任心能所及，故能致其太平之氣，而無冤結民也。」

同71致善除邪令人受道戒文108「天上度世之士，皆不貪尊貴也。但樂活而已者，亦無有奇道也。記吾戒，子□□矣，吾言萬世不可忘也，正使上行窮周無訾之天，其戒皆如此矣，無復有奇哉也。」

『鈔』戊部「詳念先人獨壽，其治獨意，以何得之。但以至道，繩邪去姦，比若神矣，無有奇怪。」(13b1)

積精選自視

『鈔』乙部「古之學者，效之於身；今之學者，反效之於人。古之學者以安身，今之學者浮華文。不積精於身，反積精於文，是爲不知其根矣。」(16b9)

『鈔』乙部「還年不老，大道將還人年，皆將候驗。瞑目還自視，正白彬彬。」(1a3)  
小度之術

『經』119道祐三人訣213「一事學道，而大度者在天，中度者在神靈，小度者在人也。二事學德，而大度者在天，中度者在神靈，小度者在人也。三事學仁，而大度者在天，中度者在神靈，小度者在人也。四事學官，而大度者在天，中度者在神靈，小度者在人也。五者好畜聚財業，大多者在天，中多者在神靈，小多者在人也。然此五事，大度中度小度，一由力之，歸命於天，歸德於地，歸仁於人。守此三事學身，以賢心善意，思之惟之，身迺可成；積之聚之，神且自生；守之養之，道且自成；樂之好之，身且自興。」

思念五臟之神

『鈔』乙部「上有藏象，下有十鄉，臥即念以近懸象，思之不止，五藏神能報二十四時氣，五行神且來救助之，萬疾皆愈。」(4a1)

見其行遊，可以語言

『漢書』87上·楊雄傳「其三月，將祭后土，上乃帥群臣橫大河，湊汾陰。既祭，行遊介山，回安邑，顧龍門，覽鹽池，登歷觀，陟西岳以望八荒，跡殷周之虛，眇然以思唐虞之風。」

『鈔』乙部「故聖人能守道，清靜之時且食，諸神皆呼與語言，比若今人呼客耳。」(5a5)  
人神出

『鈔』乙部「夫人神乃生內，返遊於外，遊不以時，還為身害，即能追之以還，自治不敗也。」(3b6)

俱同臟神出入

『鈔』乙部「夫神生於內，春，青童子十。夏，赤童子十。秋，白童子十。冬，黑童子十。四季，黃童子十二。此男子藏神也，女神亦如此數。」(10b9)

五行神吏為人使

『經』88作來善宅法129「天公問，天下何故難平安哉？五行神吏上對言，今帝王乃居百重之內，去其四境萬萬餘里，大遠者多冤結，善惡不得上通達也；奇方殊文異策斷絕，不得到其帝王前也；民臣冤結，不得自訟通也。為此積久，四方蔽塞，賢儒因而伏藏，久懷道德，悒悒而到死亡。帝王不得其奇策異辭，以安天下，大咎在四面八方遠界閉不通。」(『鈔』乙部3a9)

可降諸邪也

『經』104瑞議訓訣174「夫天地之性，自古到今，善者致善，惡者致惡，正者致正，邪者致邪，此自然之術，無可怪也。故人心端正清靜，至誠感天，無有惡意，瑞應善物為其出。子欲重知其大信，古者大聖賢皆用心清靜專一，故能致瑞應也。諸邪用心佞偽，皆無善應，此天地之大明徵也。」(鈔庚部4a6)

以刺擊地 ※「刺」=「刺」ならん

『鈔』戊部「無義之人，不仁之子，不用道理，罵天擊地，不養父母，行必持兵，恐畏鄉里，輕薄年少，無益天地之化，反為大害，并力計捕，捐棄溝洫，不得藏埋。」(6b4)

其神洋洋

『毛詩』魯頌·閟宮「萬舞洋洋，孝孫有慶。」毛傳「洋洋，衆多也。」



其道無可繫屬

『鈔』乙部「夫一者、乃道之根也、氣之始也、命之所繫屬、衆心之主也。」(2b1)

半類眞、半類邪

『經』86來善集三、道文書訣127「四人共上書、中輒有畏事不眞者、為傍人所得長短、為罪名固固耶、將似類眞也、其不信者、亂四時也。」

先者純見鬼

『大般涅槃經』17梵行品「大王如恆河邊、有諸餓鬼、其數五百、於無量歲、初不見水、雖至河上、純見流火、飢渴所逼、發聲號哭」

無有眞道也

『鈔』乙部「人而獨好眞道、眞道常保而邪者消。」(13b9)

(三)原文

天神自有神寶精光、隨五行爲色、隨四時之氣爲興衰、爲天地使人民萬物也、天地之間、陰陽之際、莫不被德化而生焉。

守道德積善、乃究洽天地鬼神精氣、人民蚊行萬物、四時五行之氣、常與往來、莫不知其善者矣。

対校：『太平經』72齋戒思神救死訣 109

※「守道德」以下は經缺。『合校』は卷72五神所持訣111の後に附す

・天神自有神寶精光 ……「天地自有神寶、悉自有神精光」

・爲天地使人民萬物也 ……「爲天地使以成人民萬物也」

・天地之間、陰陽之際 ……「夫天地陰陽之間」

書き下し

天神自ずから神寶精光有り、五行に隨ひて色を爲し、四時の氣に隨ひて興衰を爲す。天地の使と爲りて人民萬物あらしむ。天地の間、陰陽の際、德化を被りて生ぜざるは莫し。道德を守り善を積めば乃ち天地鬼神の精氣、人民蚊行、萬物四時五行の氣に究洽して、常に與に往來し、其の善なる者を知らざるは莫し。

日本語訳

天神には神宝と精光が自然と備わっており、五行にしたがって色を放ち、四時の氣にしたがって盛衰する。それらが天地に駆使された結果人民や万物が存在する。天地の間、陰陽のまじわる世界にあるすべては、その德化のお陰で生じるのである。

道德を守り善を積むことよって天地鬼神の精氣や、人民から地を這う虫に至るまでの

万物や四時五行の気とも完全に合致し、常に互いを往来することで、その善なるところを網羅し尽くす。

注

※ 前段について：経文によれば、この一節は「反明洞照」「反光」と呼ばれる内観に類した技法の秘訣を神人（天師）が解説する章の冒頭にあたる。

天神自有神寶精光

『鈔』乙部「守一者、天神助之。守二者、地神助之。守三者、人鬼助之。四五者、物祐助之。」(26a/ 1※)

『經』97 妒道不傳處士助化訣154 「夫天以要真道生物，乃下及六畜禽獸。夫四時五行，乃天地之真要道也，天地之神寶也，天地之藏氣也。」

『史記』128 龜策列傳「褚先生曰：…王者發軍行將，必鑽龜廟堂之上，以決吉凶。今高廟中有龜室，藏内以爲神寶。」(褚少孫所補)

『鈔』丁部「神人者，皇天第一心也。天地之性，清者治濁，濁者不得治清。精光爲萬物之心，明治者用心察事，當用清明。」(14b/6)

『鈔』己部「夫星者，乃人民凡物之精光。故一人不得通於帝王，一星亦不得通也。」(10b/ 3)

『史記』105 扁鵲倉公列傳「臣齊勃海秦越人也，家在於鄭，未嘗得望精光侍謁於前也。」

隨五行爲色、隨四時之氣爲興衰

『經』72 齋戒思神救死訣109 「四時五行之氣來入人腹中，爲人五藏精神，其色與天地四時色相應也。…人生比竟天年，幾何睹病，幾何遭厄會，衰盛進退，天之格法，比如四時五行有興衰也。八卦乾坤，天地之體也，尚有休囚廢絕少氣之時，何況人乎？」

爲天地使

『經』96 守一入室知神戒152 「子乃爲天地使，而日吉者，是其得天地心意也；日凶衰惡，是其失天地心意也。」

天地之間、陰陽之際

『經』36 守三實法44 「天地之間無牝牡，以何相傳，寂然便空，二大急也。」

『論衡』遭虎「凡天地之間，陰陽所生，蛟（蛟）虯之類，蜚蠊之屬，含氣而生，開口而食。」

『鹽鐵論』輕重「中國，天地之中，陰陽之際也，日月經其南，斗極出其北，含衆和之氣，產育庶物。」

守道德積善

『鈔』乙部「陽者爲善，陽神助之；陰者爲惡，陰神助之。積善不止，道福起，令人日吉。」(1b/ 5)

乃究洽天地鬼神精氣

『經』39 解師策書訣50 「九者，究也，竟也，得行此者，德迺究洽天地陰陽萬物之心也；」(鈔丙部 26a/ 1※ 「究合」)

『經』50 去邪文飛明古訣67 「心究洽於神靈，君無一憂，何故不日游乎哉？」

『雲笈七籤』107「永明十年太歲己卯，謝詹事淪先從吳興還，聞先生已辭世入山，甚懷嗟賞，於路中仍爲前傳，雖未能究洽，而粗舉大綱，有似王右軍作許先生傳。」

『經』96忍辱象天地至誠與神相應大戒<sup>253</sup>「故下古之人，承負先人失計，稍稍共絕道德，日獨積久，與天地斷絕，精氣不通，不相知命，反與四足同命，故天地憎惡之，鬼神精氣因而不祐之，病之無數，殺之無期，其大咎在此□□。」

人民·行萬物四時五行之氣

『經』54使能無爭訟法81「今吾願欲得天地陰陽人民，跂行萬物，凡事之心意，常使其喜善無已，日遊而無職無事，其身各自正，不復轉相愁苦，更相過責，豈可得聞乎哉？」

〔參考〕『太平經』經文

①卷七十一·真道九首得失文訣第一百七

真人再拜，「請問一事。」

「然，言之。」

「今天師爲太平之氣出授道德，以興無上之皇，上有好道德之君，乃下及愚賤小民，其爲恩迺洞於六合，洽於八極，無不包裹。今賢深得師文學之，及其思慮爲道，上以何爲竟，下以何爲極乎？」

「善哉！真人之問，一何微要也。其欲聞洞極，知神靈進退邪？」

「實愚蔽暗，事者不及，唯天明師錄示之。」

「諾。道有九度，分別異字也，今將爲真人具陳其意，自隨而記之，勿使有所失也。」

「唯唯。」

「然，一事名爲元氣無爲，二爲凝靖虛無，三爲數度分別可見，四爲神游出去而還反，五爲大道神與四時五行相類，六爲刺喜，七爲社謀，八爲洋神，九爲家先。一事者各分爲九，九九八十一首，殊端異文密用之，則共爲一大根，以神爲使，以人爲戶門。今爲子條訣之，亦不可勝豫具記，自思其意，其上三九二十七者，可以度世；其中央三九二十七者，可使真神吏；其下三九二十七者，其道多耶，其神精不可常使也。令人惚惚怳怳，其中時有不精之人，多失妄語，若失氣者也。」

「今愚生見師言，眩冥不知東西，願分別爲下愚生說之。」

「然，其上第一元氣無爲者，念其身也，無一爲也，但思其身洞白，若委氣而無形，常以是爲法，已成則無不爲無不知也。故人無道之時，但人耳，得道則變易成神仙；而神上天，隨天變化，即是其無不爲也。其二爲虛無自然者，守形洞虛自然，無有奇也；身中照白，上下若玉，無有瑕也；爲之積久，亦度世之術也，此次元氣無爲象也。三爲數度者，積精還自視也，數頭髮下至足，五指分別，形容身外內，莫不畢數，知其意，當常以是爲念，不失銖分，此亦小度世之術也，次虛無也。四爲神游出去者，思念五藏之神，晝出入，見其行游，可與語言也；念隨神往來，亦洞見身耳，此者知其吉凶，次數度也。五爲大道神者，人神出，迺與五行四時相類，青赤白黃黑，俱同藏神，出入往來，四時五行神吏爲人使，名爲具道，可降諸邪也。六爲刺喜者，以刺擊地，道神各亦自有典，以其家法，祠神來游，半以類真，半似邪，頗使人好巧，不可常使也，久久愁人。七爲社謀者，天地四時，社稷山川，

祭祀神下人也，使人恍惚，欲妄言其神，暴仇狂邪，不可妄爲也。八爲洋神者，言其神洋洋，其道無可繫屬，天下精氣下人也，使人妄言，半類真，半類邪。九爲家先，家先者純見鬼，無有真道也，其有召呼者，純死人之鬼來也。此最道之下極也，名爲下士也。得其上道者，能并使下，得其下道者，不能使其上也。：：  
右真道九首、得失文訣

『太平經聖君秘旨』

守一明法、有外闡內闡、無所屬無所覩、此人邪亂、急以方藥助之、尋上七首內自求之。

第一元氣無爲者、念身無一也、但思身洞白、若委氣無形成、則無不爲無不知也。

第二爲虛無自然、守形、身中照白、上下若玉無瑕、元氣無爲象也。

第三數度者、積精思還自視、數從髮下至足、五指分別、形容內外、莫畢備之、常以此爲思、名次虛無。

第四思念五藏之神出入、見其行遊、可以語言、能知吉凶、次數度也。

第五大道神者、人神出、乃與五行四時相類、青黃白黑、俱同藏神、出入往來、五行四時神吏爲使、可降百邪也。

第六爲次喜者、以刺（刺？）擊地道神使好巧而入半邪也。

第七爲社謀者、天地四時、社稷山川、祭祀神、令人通此涉邪妄也、滅而不取。

第八爲洋神者、其神洋洋、其道無可繫屬、使人妄言、半類真半類邪也。

第九家先者、統（純？）陰非真、所應皆鬼神而已。

②卷七十二·齋戒思神救死訣第一百九

六方真文悉再拜問：「前得天師言，太平氣垂到，調和陰陽者，一在和神靈，歸俱分處，深惟天師之語，使能反明洞照者，一一而見之，其人積衆多，何以能致此，諸道士能洞反光者，能聚之乎？」

「噫！大善哉。天上皇氣且至，帝王當垂拱而無憂。故天遣諸真人來具問至道要，可以爲大道德明君悉除先王之流災承負，天地之間邪惡氣，鬼物凶姦尸咎殃爲害者耶？故真人來，一一口問此至道要也，諸弟子亦寧自知不乎？」

「忽然不自知也。」

「今忽不自知，何故問之？」

「歸思天師教救，有不解者，今不自知，當皆以何能聚此諸絕洞虛靖反光能見邪者怪之，今故相與俱來共問之也。」

「善哉，真人精益進，乃知疑此。天使子來，悉爲德君具問可解邪者。」

「諾。」

「方今爲真人具說，分別道其要意，安坐共記。」

「唯唯。」

「天地自有神寶，悉自有神精光，隨五行爲色，隨四時之氣興衰，爲天地使，以成人民萬物也。夫天地陰陽之間，莫不被其德化而生焉。得其意者立可睹，不得其大要意，無門戶知；能大開通用者大吉，可除天地之間人所病苦邪惡之屬，不知其大法者，神亦不可得妄空致，妄得空使也。」

「願聞其意，使可萬萬世傳而不妄。」

「善哉，子之問也。然欲候得其術，自有大法，四時五行之氣來入人腹中，爲人五藏精神，其色與天地四時色相應也；畫之爲人，使其三合，其王氣色者蓋其外，相氣色次之，微氣最居其內，使其領袖見之。先齋戒居閒善靖處，思之念之，作其人畫像，長短自在。五人者，共居五尺素上爲之。使其好善，男思男，女思女，其畫像如此矣。此者書已衆多，非一通也。自上下議其文意而爲之，以文書傳相微明也。吾書雖多，自有大分，書以類相聚從，字以相明，則畢得其要意。」

「唯唯。」…